

当院の自動車運転再開に向けた取り組み

～運転免許センター、自動車教習所との連携に向けて～

○西岡拓未、奥野隆司、吉田希、高木洋彰、石黒望

(近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター 作業療法士)

【はじめに】

「身体に障がいがあっても、自動車を運転して、自分で好きな場所まで行きたい」そんなクライアント(以下 CL)の想いをかなえるために、当院では外来や入院中の脳血管疾患の方を中心に平成 24 年からドライビングシュミレーター(以下、DS)を導入した自動車運転支援を行っている。現在まで約 90 名の支援関わっている。平成 27 年 4 月より作業療法士(以下、OT)を中心に自動車運転支援チームを結成し、自動車運転支援に特化した関わりを目指している。運転適格を有すると思われる方に対し、免許センターでの臨時適性検査、教習所での実車評価等のステップを促し、自己認識を高めるように支援を行ってきた。しかし医療機関単独では実車運転評価が困難であり、自動車運転における関係機関との連携は必須といえる。今回、よりスムーズな運転再開へ向け、滋賀県運転免許センター(以下、免許センター)、八日市自動車教習所(以下、教習所)との連携の構築に向けた取り組みを平成 28 年 1 月より開始した。当院の自動車運転支援についての取り組みを後追い調査として実施しているアンケート結果と共に紹介する。

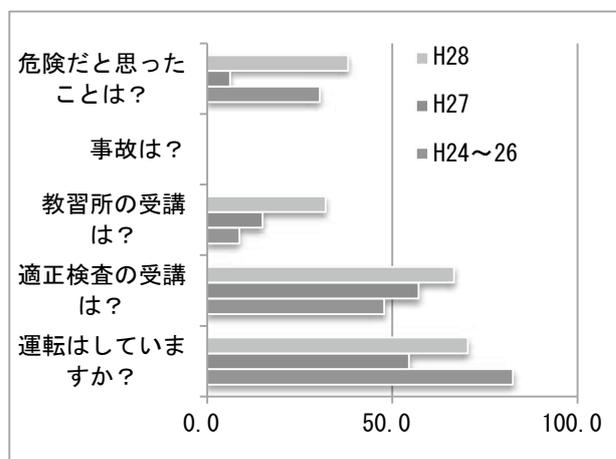
【背景】

当院は東近江圏域の回復期病院として脳血管障害、の方を中心に自宅復帰に向けたリハビリテーションを実施している。当圏域では退院後の移手段として自動車を使用される CL は多く、脳血管疾患を患った後に自動車運転を諦める、または家族から止められる CL を数多く経験した。高齢者による自動車事故が話題となり、免許証返納を勧める時代背景が障がい者の自動車運転再開へ大きな隔たりとなっている。脳血管疾患を患った CL の自動車運転に対する運転可否に関する評価を行っている医療機関も少なく、当院では DS を用いて自動車運転に関する専門的な評価を行い、運転が必要な CL に対して正しい手順を踏んだ自動車運転再開のプロセスを支援したいと考えている。

【当院の自動車運転支援プログラム】

①情報収集(COPM、聞き取り調査)にて自動車運転についての希望確認、②机上評価(TMT(A・B)、コース立方体検査)にて明らかな高次脳障害の有無を確認、③家族の同意確認、④院内歩行・屋外歩行自立獲得が推測される状況の確認、⑤医師の同意、⑥講義(運転のプロセスと事故の原因、認知・判断・操作、道路交通法について)、⑦DS 評価・訓練の導入、⑧自動車への乗り降り、車内操作確認、⑨プログラム経過のフィードバック⑩DS 報告書作成⑪運転能力を有していると判断したものに対し、免許センターでの臨時適性検査を勧める、⑫実車評価が必要な CL については連携している教習所での評価を勧める

【アンケート結果(回答が Yes の割合を記載)】



【まとめと今後の課題】

自動車運転に必要な技能を机上検査だけの評価ではなく、DSを使用することで運転に関するより具体的な作業遂行観察が行え、操作、判断、予測、認知を総合的に判断することが可能と考える。また、教習所と医療機関の連携は実車を使うことで正確な評価につながり、その意義は大きいといえる。今後、症例を通じて相互理解を得ることや、よりよい連携のための勉強会の実施、連携手順マニュアルや評価シートの統一など、連携システムの構築が必要と考えられる。